

利根運河の環境保全に流域5市と国が連携

利根川と江戸川を結ぶ人工の掘削水路である利根運河は、昭和16年に運河としての役割を終え、平常時の水の流れがなくなったり、流域の開発による生活雑排水の流入で水質が悪化したりして、豊かな水辺環境が悪くなり始めています。

そこで市では、近隣市や国、県、市民とともに、水環境の維持・保全に努めてきましたが、さらなる保全策として、(財)日本生態系協会の提案により、利根運河流域に関係する野田市、柏市、流山市、守谷市、吉川市の5市と国・県との連携で調査研究をしたいとして、国が募集する「国土施策創発調査」事業に応募し、採択されました。

「自然と歴史が調和した魅力的な地域空間づくり」



国土施策創発調査は、国において平成16年度から始まった事業であり、国が主体となり、国と地方の連携及びボトムアップ的な手法による国土の利用、開発及び保全に関する政策の推進のために行う調査で、地方公共団体から提案された調査も対象となるものです。今回野田市が提案をし、採択された中身は、平成11年



利根運河は明治23年に完成した人工の運河

度に緊急暫定導水路としての役割を終え、河川水の通水がなくなった結果、これまでのさまざまな努力にもかかわらず、水質が悪化している利根運河の水辺環境や流域の自然環境の保全を図るため、さらなる保全策を財団法人日本生態系協会から提案された計画をもとに、利根運河流域に関係する5市と、国・県との連携で調査研究したいとして応募したものです。

具体的には、利根運河流域を対象に、自然や歴史・文化等の地域資源を生かした自然や歴史と調和した美しい地域空間の実現方策を検討するものであり、利根運河の歴史や観光資源などの文化遺産、利根川水系河川整備基本方針に基づいた水辺環境、周辺に広がる首都圏でも貴重となった谷津田や里山の自然環境を一体として、どのように保全すべきかを、国、県、関係市のほか、学識経験者、地域関係団体による検討会を立ち上げ、現状と課題の整理、拠点地区のあり方、活用・展開の方策、役割分担や推進体制などを検討しました。

調査検討の主な成果としては、ホームページ利根運河フォーラムの開設、利根運河周辺の今後の地域づくりの基本方針をまとめた利根運河流域宣言、利根運河エコパークの将来像、利根運河エコパークのアクションプログラムなどがまとめられました。

さらに重点取組み事項として、核となる利根運河の水環境改善方策として、①「流域の汚濁負荷量低減対策」と②「導水による希釈と流量確保」の対策が提案されま